

会 議 録

| | | | | |
|--------------------|-----|--|------|----|
| 会議名 (審議会等名) | | 相模原市あじさい大学運営委員会（令和3年度第2回） | | |
| 事務局 (担当課) | | 健康福祉局地域包括ケア推進部高齢・障害者福祉課 電話042-769-8354（直通） | | |
| 開催日時 | | 令和3年12月2日（木曜日）10:00～:12:00 | | |
| 開催場所 | | 総合学習センター セミナールーム | | |
| 出席者 | 委員 | 10名（別紙のとおり） | | |
| | その他 | 2名（相模原市シルバー人材センター職員） | | |
| | 事務局 | 5名（高齢・障害者福祉課長、生涯学習センター所長、他3名） | | |
| 公開の可否 | | <input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可 | 傍聴者数 | なし |
| 公開不可・一部不可の場合は、その理由 | | | | |
| 会議次第 | | 1 あいさつ 2 議題 (1) 令和4年度に向けた「あじさい大学」の見直しについて ア「あじさい大学」の見直しの検討の経緯について イ「あじさい大学」の見直し検討のまとめ ウ「あじさい大学コース」について（案） エ「あじさい大学」の繋がりを引き継ぐため オ「あじさい大学運営委員会」の今後について (2) その他 | | |

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

2 あいさつ

小林委員長あいさつ

高齢・障害者福祉課長あいさつ

3 議題

次第に沿って、小林委員長の進行により議事が進められた。

(1) 令和4年度に向けた「あじさい大学」の見直しについて

ア～エについて事務局から説明し、質疑回答を行った後、オについて事務局から説明した。

【主な質疑】

(小林(輝)委員) 見直しの流れを包括的に取り組まなければいけないと思うし、民間活用を促す方向性は良いが、見直しの考え方を整理しておく必要がある。総合計画審議会から見直しの指示があり実施したという経緯はあるが、民間などで色々な団体が立ち上がり、きっかけづくりとしての一定の成果は果たしたのではないか。今後は民間の活動に委ねるというしっかりした整理が必要である。あじさい大学の健康や生涯スポーツに特化したものを残すという説明で、太極拳やバウンドテニスなどはなぜ民間に委ねないのか等も問われると思われる。

あじさい大学コースのねらいとして仲間づくり等とあり、各大学がやることなので目的とするには難しいと思うが、市民大学の方で学習機会を提供する形から仲間づくりに発展させるような受講者間の交流機会の仕掛けをしていくことも必要ではないか。

(小林委員長) 見直し経過はあるが、見直しの考え方を明確に整理すべき、仲間づくりに発展させる仕掛けをしていくべきだとの意見であると思うがどうか。

(事務局) 見直しの考え方についてはこれまでも議論していただいていたことで、改めてこちらでも整理したい。仲間づくりは、講座での調整になるが、講師との打合せ内容にも関するので、あじさい大学コースの意義やねらいを説明し、講座の中で仲間づくり、横の繋がりを意識したものとしていけるように考えている。

(小林(輝)委員) せっかくあじさい大学と統合するので、市民大学の全講座や運営の中で

仲間づくりのきっかけとなる仕掛けを考えていただけたら良いと思う。

(事務局)

今の意見ですが、あじさい大学は仲間づくり、生きがいを目的として進めてきたが、あじさい大学コースでも継承していく。変更点としては、受講対象が60歳以上のみとしていたものが、15歳以上となることで多世代の繋がりが出来る。これらを見極め今後活かしていきたい。

(平岡委員)

講師の立場としての意見だが、市民大学に統合する中であじさい大学の名を残すのは良い形だと思う。40年以上続いたが、健康クラスのOB会が12チームくらいで500人以上いる。あじさい大学の名前がなくなるとOBが寂しく感じると思うが、ホームページで残していくことが資料に載っていたのでありがたい。市民大学との統合で、あじさい大学コースとして名前が継承されることを、既存の人を含めしっかりと示して欲しい。

体操や運動を通じてでも、友好的な人は仲間づくりが自然に出来る。相模女子大学と大野南高齢者支援センターと提携し、4年生で管理栄養士になる学生が実習を通じ、社会に出た時にどのように地域に貢献できるか、孤独な老人を減らすことを授業のテーマに活動している。毎朝図書館で一日を過ごす老人男性がおり、そのような方をラジオ体操に誘うが断られるケースが多い。指導者養成コースだが、地域で指導できる様な指導力を学ぶという健康体操コースを提案したい。地域で孤立しているのは男性が多く、そういった方が指導者としての基本的な心構えや体操の基礎知識、接客のポイント等を学び、これを通じ自信を取り戻して指導者的立場で地域に入っていければと考える。これからの発展のためにこのような講座も出来ればと思う。

(小林委員長)

ひとつは指導者養成コースの提案と、もうひとつはあじさい大学の名前も40年の歴史があるので、中身も含めて位置づけして欲しいという意見であると思うがどうか。

(事務局)

あじさい大学の名前はおっしゃられる通り、OBにとって大切にされているものであり、名前を継承するとのことであじさい大学コースとして決定の提案をした。周知方法も含めて考えたい。講師となれるかまで行けるかどうかはわからないが、高齢者のみではなく若い方でも受講でき、高齢者と関わっていければとのことでコースを設定した。

(平岡委員)

講師となるのは難しいとのコメントであったが、DVDを見ながら百歳体操をやる際の世話役のような形から始めれば可能だと思う。ただし世話役をするとしても知識がないといけないので、既存のものを使いながらできればと思う。

(八木(鉄)委員)

あじさい大学コースでどこまで盛り込むのか。市民大学の中のあじさい大学コースで全てやるのは難しいのではないかと。百歳体操は自治会単位でも実施しているが、70~80代の男性は出てこず、仲間と一緒にというのでなければ、自分で手を挙げて参加する方は少なく、あじさい大学コースの中に全部盛り込むのは難しいと思う。

(堤委員)

ひとつ目に百歳体操は地区・社協・高齢者支援センターの主催でどの地

域でもやっており、3世代交流でやると割と活性化になっているので、百歳体操あじさい大学コースとは切り離れた方がよいと考える。

ふたつ目はあじさい大学コースも対象が15歳以上となった事で、3世代ではないが高齢者だけに偏るのではなく、今までと違った若者と高齢者の交流や仲間づくりに変化ができ、若者のエネルギーをエッセンスとして入れることに対しては期待したい。

(小林委員長) 3世代交流、多世代交流でコミュニティへの地域の継続性に結び付けてくるのではないかという意味で重要だと思う。

(佐藤委員) あじさい大学の名前を残すことで広く愛着をもっていただき、仲間づくりの合言葉として、あじさい大学コースとなることを大事にしたい。きっかけづくりや仕組み等色々あるが、その仕組みをしっかりと制度として形として、知恵を出さなければと感じた。

(板倉委員) あじさい大学は高齢者に特化した大学であるという認識である。2025年には人口の3割が高齢者と言われている。そのような中地域コミュニティづくりにおいて、健康福祉やスポーツなど行政的に色々な施策による支援をいただいているが、地域の約7割の人がそういうものに関わらず、定着しない状況で困っている。あじさい大学が統合されることは理解しているが、高齢者が地域コミュニティの中でどう関わり、いきいきと活動し地域活性化にどう寄与していけるのかが、高齢社会における重要な地域課題である。あじさい大学コースでいかにして地域活動を盛り上げていくかといった学びの場があってもいいと思う。単なる講座という形で終わってしまうのではなく、実際に仲間づくりと共に指導者養成の学びを通して、地域コミュニティの活性化に結び付くような教育があってもいいのではないかと考えている。

(小林委員長) やがて高齢者人口が3割を超えている中で、高齢者をあじさい大学と地域活性化との関係において結び付ける方法はないか心配された意見であるがどう考えるか。

(安藤副委員長) 公民館活動の中で、各公民館が高齢者学級をやっている。あじさい大学の今後の見直しの中で、市では同じような事業については統合の方向性が出ているが、あじさい大学と市民大学を統合するだけで良いのか。公民館は地域で実施している。地域活動において、あじさい大学の主旨を教育委員会で高齢者学級に組込んでやる方法はどうだろうか。原点は仲間づくりであり、教育的な立場で物を教えるという観点で話している感があるが、全体的に広い意味で仲間づくりを考える施策をしていただきたい。

(小林委員長) あじさい大学でも高齢者はやる。公民館でも高齢者学級がある。福祉協議会でも高齢者事業をやっている。この様なことから1つに結び合ったら良いのではという意見である。

(大沼委員) あじさい大学と市民大学は、学ぶことを一番の目的として、それにより生きがいを感じ、仲間づくりという結果になるものと考えている。一緒くたには出来ないかと思うので、あじさい大学はこの様な目標を掲げつつ、まず

やってみる。それから地域連携等を含めていってもよいのではないか。地域は地域でケアしてもらい、現状では一緒にやるのは難しいと思う。大学という名前を付けているので、学ぶことにより、それを得ていただくのが大事なのではないか。

(高井委員) 公民館もあじさい大学と一緒に、仲間づくりなどを含めてやっている。参加募集をしても男性は少なく、まとまって何かすることも無いようで、仲間づくりも苦手なようだ。社協でやすらぎステーションを実施しているが、参加者はほぼ女性である。あじさい大学に関しては、仲間づくりが出来て良かったとの話を聞いており、このように残るのは良いと思う。

(小林委員長) それぞれの立場の委員から意見を頂いた。これからのあじさい大学コースをブラッシュアップしていくための意見や考え方、現状と捉えていただければと思う。

これから、議題ウとエにはいるが、あじさい大学コースについて、講座の特徴、内容、講師、会場の件が提案されている。意見というよりも、どの様にしたら良くなるのかを考えていただきたい。

(大沼委員) 質問だが、健康音楽講座は中央区の1講座のみか。あじさい大学は土日や夜間がなかったが、対象者15歳以上とのことから開催日、曜日、時間はどうなるのか。新聞を取らない人が増えており、市の広報入手が困難な方やホームページ閲覧が出来ない方への対応はどうするのか。

(事務局) 講座についてはあくまでも案と捉えていただきたい。15歳以上とのことから若い人であると平日の早い時間は難しいかと考えており、今後検討していく。また、市民大学へ統合することで市広報、ホームページ等による周知方法は大きな問題であり内部で検討する。

(小林委員長) 具体的にはこれからの検討課題とのことである。

(平岡委員) 市民大学について座間市とどのようにやっているかも含め、詳細説明をお願いしたい。

(事務局) 市民大学は発足50年になり、当初は相模女子大学だけであったが、相模原市、座間市、学校の共催で事業を実施している。現在の協力大学校は13校となる。実施内容は各学校の機能を活用し、特性を活かした講座であり、通常は年25講座前後実施している。講座は市が参加を依頼しているが、市民大学は学校側で様々な時事ネタや参加者アンケート結果を考慮してテーマ設定をしている。昨年はコロナの影響で中止したが、今年度は少し規模を縮小し、ほぼオンラインでやっている。

(平岡委員) あじさい大学と類似した講座、例えば健康などについてはどうか。

(事務局) 見直しにもあるが、例として文学、美術とか大きなテーマとしては重複している部分もある。市民大学は毎年テーマが変わるので、いつも重複しているとは言えない。15歳以上対象としているが、実態は高齢者の参加が多い。基本的に会場は大学の教室である。アンケート結果では、大学のキャンパスで講座を受けられる事に魅力を感じている方もかなりいる。

(高井委員) 緑区の会場はサンエールさがみはらとソレイユさがみしかないのか。緑

区は広いので、相模湖や藤野地区での考えはないか。

(事務局) 令和2年度に予定していた会場であり、コロナ対策も考えて40名参加でき、公共交通手段の便が良い会場で決定した。別会場は、今後キャパシティ等を見ながら検討したい。あじさい大学は、毎年決まったところでやる必要はないので、来年開講してから広がりを持たすことも可能である。

(大沼委員) あじさい大学コースは、大学の施設を借りられないのか。公民館も定期的に借りることは出来ないと聞いている。コーラスはピアノが会場に無くてもキーボードを持ち込むことで可能である。

(事務局) 資料の講師への依頼にある市民大学参加校に依頼した場合、会場も大学で依頼したいと考えている。

(高井委員) 2ヵ月前の抽選となるので、ひと月に1回程度であれば、緑区の公民館では抽選前に事務連絡をいただければ公民館の使用は可能である。

(堤委員) 公民館は地域の活用場であり、市社協、ボランティア、民児協、自治会等で使用し、皆さんが抽選で取っているからあじさい大学は地区の事業とは分けた方が良くと思う。緑区に限らず会場は何処を選択しても行きやすい、行きにくいがあるのでどの地区も限られた会場しかない。あじさい大学が始まった頃は地域のイベントがなく、大学で学ぶ人が少なかった時代だったので、年々状況は変わっていると思う。

(八木(鉄)委員) 資料に載っているのは全市的な対応ができる会場である。公民館は、公民館区としてエリアが決まっており、地域の方が使用する方向であり、抽選で使用するケースが多く、1年前からの予約は難しい。旧相模原市域の公民館は、人口規模に関わりなく同じような部屋配置であり、人口規模によって分けていない。東林については新たに東林ふれあいセンターができたりと、人口密度によっては抽選が当たりにくいところがある。会場選びも、地域の人と全市を対象にしたものがある。津久井地域の公民館は規模が小さく、自治会の集会場などに使用しているところもある。

(小林委員長) 情報有難うございます。あじさい大学コースを展開する中で、会場等も固定化ではなく流動的に捉えていかなくてはと思う。参考にしたい。

(平岡委員) 体操教室の現状は、収容人員80人が半分の40人となってしまったので、定員50人を25人に分け、時間も2時間から1時間とし、2回に分けて実施している。あじさい大学コースの会場は広く設定しておく方がよい。また、体操や太極拳は屋外・公園でも許可を取れば可能である。

(小林委員長) 議題(1)ウ、エは以上とする。次に議題(1)オについて、資料説明に対する意見や質問をお願いします。

(小林(輝)委員) 運営委員会は今の見直しのためでなく、どのように運営するかのために作られたもので、その役目は終わったということによいか。

(佐藤委員) 運営委員会の役目は、公の審議会規定に基づき、傍聴、議事録を公開しているの、運営委員会については廃止でよいと思う。しかし、市民大学に統合し、あじさい大学コースの名前を残したから、これで終了としてしまうと今まで議論した内容を含め、どうやってブラッシュアップするかな

どいくつかの課題が残る。期限限定とか令和4年度スタート後の様子や利用者の声については、このような会議体が無いと行政側が一気に引受けることになるので、別の形で高齢者問題を含め、あじさい大学コースが落ち着くように議論する場はできないか。

(小林委員長) 先ほど周知など情報発信についての意見があったが、受信の方法はどうか、市民の声を受ける機会や組織があるのかどうか。一方通行ではなく、受信するにはどうするのかという意見と捉えてよいか。

(堤委員) 私的意見であるが、当委員に携われたことから、この後1年間位はあじさい大学があじさい大学コースになって、色々関わった中でどうなったのか様子を聞きたい。

(八木(鉄)委員) 相模原市高齢者大学設置運営要綱というのがある。大学運営の意見を聞くために、あじさい大学運営委員会を置くとの形である。あじさい大学がなくなれば運営要綱は廃止となる。今の市民大学では市民の意見等を吸い上げるとか、大学でのテーマ設定等は受講者のアンケートで行うとあるが、市民大学の基本方針的なことがあるのかどうか所管する部署に聞きたい。

(事務局) 毎年アンケートを取り、講座内容や運営に関わるもの等を踏まえ、大学側で考慮し講座を実施している。こういった面では市民の声ではなく受講者のみである。幅広く聞くことの必要性があるかどうかだが、先ほどから申し上げているように市民から意見を聞いている。市としてもその通りだと考えたとしても、大学に講座内容等を依頼する関係で市の意向が100%反映されない状況もある。あじさい大学がいままで各種団体の方からの意見を聞いて、どのように反映されたかも判らない。実態を聞きとりながら組織の必要性を検討したいが、市民大学にはいままでそのような組織は無い。現状、市民大学を所管する部署としては運営委員会のような組織を置くつもりは無い。

市民大学の中にあじさい大学の一部が統合されるという形になるが、そのままずっといくとは思っていない。市民大学、あじさい大学の良さを融合させながら、大きな意味での市民大学を作り上げていきたい。その中には多方面からの意見を何らかの形で伺う必要があると思うが、具体的にどうするかまでは考えていない。

(小林委員長) この様な状況ということである。これに対して意見はあるか。運営委員会としては、この様な意見があったという事で、事務局は受けとっていただきたい。その他、全体を通して何かあるか。

(事務局) 色々なご意見ありがとうございます。高齢者が増加する中で、高齢者施策を考えていかなければと踏まえている。その中の1つがあじさい大学だと思っている。あじさい大学で全て網羅できるものではなく、いろいろな施策を通しながら、あじさい大学コースの形で進めていきたいと考えている。実際に進めてみて何かがあるかもしれないが、その際に検証したい。引続き皆様のご意見を活かしながら、あじさい大学コースとして、良い方向で進められたらと思う。また、次回の運営委員会では、正式に令和4年

度はこういう形でこの事をお示し出来ればと考えている。

(事務局)

議題2(2)について、次回委員会は、2～3月頃を開催する予定であり、皆さんの予定を聞き、調整させていただきたい。

(小林委員長)

以上で全ての議事を終了する。最後に安藤副委員長よりまとめを兼ねて一言いただいて閉会とする。

(安藤副委員長)

結論としては、運営委員会を廃止するというのではなく、来年3月末をもってあじさい大学設置要綱を廃止すると書いてもらった方がよかったという気がする。事務局よりあじさい大学の主旨は継承していくという話があったので、老人クラブ会長としては高齢者の福祉もやってもらっており、健康づくりは、この大学の役目だったと思う。そこも含めて今後とも皆様の協力を頂きたいと思う。

閉 会

あじさい大学運営委員会出欠席名簿

| | 氏 名 | 所 属 等 | 備 考 | 出欠席 |
|----|--------|-----------------|------|-----|
| 1 | 小林 政美 | 社会教育委員会議 委員 | 委員長 | 出席 |
| 2 | 安藤 正義 | 老人クラブ連合会会長 | 副委員長 | 出席 |
| 3 | 小林 輝明 | 社会福祉協議会常務理事 | | 出席 |
| 4 | 板倉 忠臣 | 老人クラブ連合会副会長 | | 出席 |
| 5 | 八木 鉄雄 | 民生委員児童委員協議会常任理事 | | 出席 |
| 6 | 堤 道子 | 民生委員児童委員協議会常任理事 | | 出席 |
| 7 | 高井 登志子 | 公民館連絡協議会副会長 | | 出席 |
| 8 | 八木 朋子 | 学識経験者 | | 欠席 |
| 9 | 池田 直道 | 市文化協会 会長 | | 欠席 |
| 10 | 佐藤 暁 | 市スポーツ協会 常務理事 | | 出席 |
| 11 | 平岡 亮一 | 講師代表（健康1） | | 出席 |
| 12 | 大沼 ケイ | 講師代表（健康4） | | 出席 |
| 13 | 欠員 | 学生代表 | | |
| 14 | 欠員 | 学生代表 | | |